

# コロナ禍において大学生の ソーシャルサポートは 何と関連するのか？ —2020年11月の調査から—

上田 仁\*・松浦 均\*\*

What is correlated with the social support in Covid-19 in college students?: A survey November in 2020

Jin UEDA\* and Hitoshi MATSUURA\*\*

The study was to survey that social support was correlated with the frequency of contact through means of communication and isolation during the infectious phase of COVID-19. Subjects ( $n=102$ ) were college students. As a result, the frequency of contact through some means of communication were correlated with a social support from close friends, acquaintance, teachers and family. Additionally, social support from close friends and teachers was correlated isolation. In conclusion, it was proposed that university should give college students opportunity to continue good relationship. There was an important unanswered research question. What is the mechanism for increasing social support?

key words: social support, college students, Covid-19

## 問題と目的

2020年1月から新型コロナウイルス感染症が拡大し、私たちの生活に大きな変化がもたらされている。中でも、大学生の生活には大きな変化が生じた。文科省(2021)によると、大学生回答者の6割が「令和2年度の後期の授業はほとんどまたは全てオンライン授業だった」と回答していた。緊急事態宣言や蔓延防止等重点措置が度々発出され、対面での交流が難しい状況が現在まで続いており、コロナ禍による一部の大学生の孤立が問題視されている。こうした中で、他者との交流の方法として、ビデオ通話など様々なコミュニケーション方法が選択された。

また、このような状況下ではソーシャルサポート(以下SS

と表記)が大学生の孤独感の低減につながる事が期待される。コロナ禍前からSSはストレス低減につながる事が示されており(嶋, 1992など)、コロナ禍でもその有効性が示されている(Xu, Ou, Luo, Wang, Chang, Novak, Shen, Zheng, Wang, 2020など)。しかし、対面交流や様々なコミュニケーション方法で接触することとSSとの関連についてはまだ検討されていない。そこで本研究では、コロナ禍におけるSSと様々なコミュニケーション方法による接触頻度、さらには孤独感との関連性を調査する。

## 方 法

**調査時期** 2020年11月下旬に調査を実施し、回答期間は2週間とした。回答期間のコロナ陽性者数については、全国1日あたりの新規陽性者数は1786人であった。

**対象者** 大学生(関東, 東海, 中国, 近畿地方)を対象に、調査協力を承諾を得た教員から指導学生や受講生にURLを送信してもらい、Googleフォームで回答を求めた。

### 調査項目

(1) 接触頻度 コロナ禍で他者(親しい友人, 知人, 家族, 教員)とどのような方法でどの程度接触していたかを尋ねた。直近1週間での接触方法と接触頻度について、「対面での接触」は「対面でどれくらい会ったか」について、「SNS上での接触」は「SNS(LineやInstagram, Twitterなど)で文字でのやりとりがどれくらいあったか」について、「オンライン上での接触」は、「通話(ビデオ通話やZoom, 電話など)がどれくらいあったか」について、「授業での接触」は、「授業でどれくらいやりとりがあったか」について、それぞれ「1. まったくなかった」から「5. よくあった」の5件法で尋ねた。なお、親しい友人と知人についてはすべての項目、教員と家族については「対面」、「SNS」、「オンライン」の項目を尋ねた。

(2) SS 大学生用SS尺度(嶋, 1992)を用いた。「おしゃべりなどをして楽しい時間を過ごす」や「気持ちや感情をわかってもらえる」など12項目を用い、それぞれの他者(親しい友人・知人・教員・家族)についてどれくらい当てはまるか、「1. あてはまらない」から「5. あてはまる」の5件法で尋ねた。

(3) 孤独感 日本語版孤独感尺度(Igarashi, 2019)を用いた。「他の人から孤立していると感じることがありますか」や「自分に仲間付き合い合いがないと感じることがありますか」など3項目を用い、「1. ほとんどない」「2. たまにある」「3. よくある」の3件法で尋ねた。

### 倫理審査

第2著者が所属する機関の研究倫理審査委員会承認を得た(三重大学研究倫理審査委員会承認番号2020-6)。

### 分析方法

以下に示す分析にはJASP0.16を使用した。

\* 愛知県庁

Aichi Prefectural Government, 3-1-2, Sannomaru, Naka-ku, Nagoya city, Aichi 460-8501, Japan.

\*\* 三重大学教育学部

Mie University Faculty of Education, 1577, Kurimamachiya-cho, Tsu city, Mie 514-8507 Japan.

**Table 1** Descriptive Statistics

means of communication		n	Mean	SD
Face to Face	Close Friends	(n = 99)	2.889	1.406
	Acquaintance	(n = 99)	2.485	1.388
	Teachers	(n = 102)	2.441	1.317
	Family	(n = 102)	3.882	1.702
SNS	Close Friends	(n = 99)	3.879	1.319
	Acquaintance	(n = 99)	2.303	1.165
	Teachers	(n = 102)	1.627	1.014
	Family	(n = 102)	3.696	1.303
Online	Close Friends	(n = 99)	1.949	1.232
	Acquaintance	(n = 99)	1.384	0.724
	Teachers	(n = 102)	1.745	1.264
	Family	(n = 102)	2.186	1.520
Class	Close Friends	(n = 99)	2.869	1.468
	Acquaintance	(n = 98)	2.337	1.243
Social Support	Close Friends	(n = 99)	4.081	0.753
	Acquaintance	(n = 99)	2.550	0.794
	Teachers	(n = 102)	2.414	0.730
	Family	(n = 102)	4.109	0.805
Loneliness		(n = 102)	1.663	0.542

**結 果**

回答者は102名であった。内訳は、男性19名、女性82名、その他・無回答1名であった。学年については、1年生18名、2年生25名、3年生37名、4年生21名、大学院生1名であった。

SSと孤独感のα係数について、親しい友人(α=.910)、知人(α=.915)、教員(α=.895)、家族(α=.926)、孤独感(α=.763)と概ね良好であった。親しい友人・知人・教員・家族とのそれぞれのコミュニケーション方法による接触頻度およびそれぞれからのSS、孤独感の平均値と標準偏差はTable 1に示した。次に、それぞれの相手からのSSとそれぞれの相手とのそれぞれの方法による接触頻度および孤独感との相関分析を行った(Table 2)。親しい友人について、親しい友人からのSSと親しい友人との全ての接触方法による接触頻度で有意な正の相関が、知人からのSSと知人との全ての接触方法による接触頻度で有意な正の相関が見られた。また、教員からのSSと教員との「SNS」、「オンライン」での接触頻度で正の相関が、家族からのSSと家族との「SNS」、「オンライン」での接触頻度で正の相関が見られた。さらにSSと孤独感の相関については、親しい友人からのSS、教員からのSSとで有意な負の相関が見られた。

**考 察**

本研究では、コロナ禍におけるSSとさまざまな方法による接触頻度および孤独感にどのような関連があるかを検討してきた。その結果、親しい友人および知人ではSSと全ての方法による接触頻度に有意な正の関連が見られた。特筆すべき点として、SSとSNSとの間に親しい友人および知人で中程度の相関が見られた。五十嵐(2016)は、SNSはオンライン空間のみならず現実世界のつながりを反映していると指摘している。そのため、SNSでのつながりが既存のネットワークを継続させていたため、SSとの関連が見られたと予想される。また、コロナ禍で対面での交流が難しい状況が続いてお

**Table 2** Correlations between social support and others

	means of communication	means of communication			
		Close Friends	Acquaintance	Teachers	Family
frequency	Face to Face	.204*	.301**	.110	.081
	SNS	.666***	.472***	.272**	.528***
	Online	.223*	.460***	.230*	.328***
	Class	.257*	.406***	-	-
	Loneliness	-.295**	-.167	-.207*	-.114

\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001

り、SNS、オンラインおよび授業とSSとで関連があることも示され、対面のみならず様々なコミュニケーション手段がSSと関連があると示唆された。

SSと孤独感との関連では、親しい友人と教員で有意な負の相関が示された。これまでのコロナ禍研究で指摘されていた孤独感と親しい友人からのSSとの関連(Xu et al., 2020)を支持する結果であった。本研究ではさらに、教員からのSSと孤独感に負の関連があることも示された。

しかし、その一方で知人および家族からのSSは、孤独感との間に有意な相関がなかった。このことから、単に「SSがあるか」ということのみならず「誰からSSをもらうのか」という点にも着目すべきと示唆された。したがって、大学には、単に知人との交流機会を提供することだけにとどまらず、様々な他者との関係性を継続させ親密度を上げるような機会の提供を行うことが求められる。それが孤立している大学生への支援対策となるのではないだろうか。

以上のことから、コロナ禍において大学生のSSに関連する他者との接触頻度、並びにその効果について検証ができた。しかし、他の要因として地域差や個人差も考えられるため、さらに継続的な調査が必要であると考えられる。

**引用文献**

Igarashi, T.(2019). Development of the Japanese version of the three-item loneliness scale. *BMC psychology*, *7*: 20, 1-8.  
 五十嵐 祐 (2016). オンラインとオフラインの社会的ネットワークと社会関係資本 大坊 郁夫 (監修) 対人関係の社会心理学の研究レシビ 北大路書房 pp.109-130.  
 文部科学省 (2021). 新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けた学生等の学生生活に関する調査等の結果について [https://www.mext.go.jp/content/20210526-mxt\\_kouhou01-000004520\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/content/20210526-mxt_kouhou01-000004520_1.pdf) (最終閲覧日 2021年12月5日)  
 嶋 信宏 (1992). 大学生におけるソーシャルサポートの日常生活ストレスに対する効果 *社会心理学研究*, *7*, 45-53.  
 Xu, J., Ou, J., Luo, S., Wang, Z., Chang, E., Novak, C., Shen, J., Zheng, S., Wang, Y.(2020). Perceived Social Support Protects Lonely People Against COVID-19 Anxiety: A Three-Wave Longitudinal Study in China. *Front Psychol.* *11*.